

日本史 出題の意図

問題Ⅰ 古代から中世における、軍事をめぐる諸問題について、理解できているかどうかを問うものである。

問1 大野城などのいわゆる朝鮮式山城が、白村江の敗戦後における対外的緊張の中で西日本を中心に造営されたこと、多賀城などの城柵が、蝦夷支配のために東北地方を中心に造営されたこと、および、多賀城などは築地塀等が正庁を取り囲む構造を持ち、それ自体が行政の拠点であったことを理解できているかどうかを問うものである。

問2 衛士が正丁を対象として徴発された兵士から動員されたということが理解できているかどうかを問うものである。

問3 庸は、計帳から算出された成人男子の数に応じて納入されていたということが理解できているかどうかを問うものである。

問4 応天門の変について理解できているかどうかを問うものである。

問5 検非違使および滝口の武者について理解できているかどうかを問うものである。

問6 京都大番役が、御家人を対象に、守護を通じて動員されたことを理解できているかどうかを問うものである。

問題Ⅱ 日本中世の物流およびそれに伴う政治、文化に関する基礎的理解を問うものである。

問1 史料読解を通じ蒙古襲来に関する正しい理解を導き出す能力を問うものである。

問2 日本中世の市・市場の普及に関する知識を問うものである。

問3 鎌倉文化を代表する徒然草に関する知識を問うものである。

問4 日本中世の年貢収取を含めた物流に関する考察能力を問うものである。

問5 戦国期大名の交通路支配の特質に関する考察能力を問うものである。

問題Ⅲ 日本近世の政治や石高制に関する基礎的理解を問うものである。

- 問 1 近世社会を得し続けている石高制の機能についての理解を問うものである。
- 問 2 参勤交代について出題文で提示された解釈と、教科書を通じて幕府領として重要であった地域について学習してきたことがらとを対照させながら、新たに考察できるかを問うものである。
- 問 3 参勤交代について教科書では学ばなかったことがらについて、教科書を通じて学んだことを基礎にしつつ出題文や設問を経て新たに考察を展開させうるかを問うものである。
- 問 4 出題文や設問および図によって与えられた情報をきちんと読み取ることを通じて考察を展開させうるかを問うものである。
- 問 5 石高制と並んで近世社会を特質づけた事象と影響について、きちんと学習を行ってきたかを問うものである。

問題Ⅳ 近現代の教育について理解できているか問うものである。

- 問 1 布告が誰を対象に出されたものを理解できるか問うものである。
- 問 2 江戸時代の教育と学制による教育の違いについて理解できているか問うものである。
- 問 3 明治期の就学状況について理解できているか問うものである。
- 問 4 植民地朝鮮における日本語をめぐる政策およびその状況について理解できているかを問うものである。
- 問 5 戦後日本、特に 1950 年代における教育と政治との関係に関する基礎的事項を問うものである。
- 問 6 史料から問われている事項が大学紛争についてであることを導きだし、それについて理解できているかどうかを問うものである。